

# 横田英史の 書籍紹介コーナー



## 量子超越

### ～量子コンピュータが世界を変える～

ミチオ・カク、斉藤隆央・訳  
NHK出版 2,860円(税込)

量子コンピュータの潜在能力や活用への期待を論じた書。医療や創薬、エネルギー、核融合、地球温暖化などの課題を網羅的に取り上げ、量子コンピュータが果たすことのできる役割を紹介する。

例えば量子医学への応用では、創薬や難病の治療、遺伝子編集、不老不死など興味深い話が満載である。不老不死では、アルツハイマー病やALSなどとの関連が疑われるプリオンの性質を量子コンピュータで理解し、治療法が見つかる可能性に言及する。

量子力学や量子コンピュータの原理に深入りせず、実用化後の応用面に的を絞って論じる。量子コンピュータが人類に与える影響の大きさを知ることのできる良書である。

## 生成AIのしくみ

### ～〈流れ〉が画像・音声・動画をつくる～

岡野原大輔  
岩波書店 1,650円(税込)

生成AIが、〈流れ〉をどのように使って画像や音声、動画を生成しているのかを、数式を使わず説明した書。生成AIの仕組みを定性的に説明する試みはユニークである。著者が強調するのは、「水面にインクで書いた文字が広がる過程を逆向きに再生できれば文字が浮かび上がる」ような〈流れ〉が、生成AIの核心となるアイデアということ。〈流れ〉によって、生成AIは

画像や音声、動画を作り出すとする。

筆者は生成AIの生成タスクを「とりわけ難しい機械学習問題」と位置づけ、その問題を解くツールとして「多様体仮説」「対称性」「構成性」を紹介する。

## 破壊なき市場創造の時代

### ～これからのイノベーションを実現する～

W・チャン・キム、レネ・モボルニュ、  
有賀裕子・訳  
ダイヤモンド社 2,530円(税込)

ブルー・オーシャン戦略で知られる著者が、既存の業界や企業を破壊せず、企業倒産や雇用の喪失を生まない「非ディスラプトなイノベーション」を提唱した書。ゼロサム思考からポジティブ思考に転換し、経済善と社会善を両立すべきだと強調する。

まだ解決されていない課題や問題を探せば、破壊を伴わない新しいイノベーションの道が見えると強調する。既存の業界の垣根の外側に非ディスラプトな新規領域を創造し、既存企業との直接対決や反発を避けて破壊なしに成長を実現する。

破壊を伴わないイノベーションの機会を見つけれられないのは、暗黙の前提が邪魔するからだと言く。他人の憶測を鵜呑みにしないことや識者を当てにしないことが重要だとする。

## AI経済の勝者

アジェイ・アグラワル、ジョシュア・ガンズ、  
アヴィ・ゴールドファーフ、小坂恵理・訳  
早川書房 3,190円(税込)

金融やマーケティング、流通などのビジネスにAIを実装しワークフローを効率化

する手法を論じた書。個人や企業、組織がAIを効果的に使い、投資に見合った利益を得るための勘所を披露する。AIが予測、人間が判断を担うことが重要だと断じる。

筆者はAI活用のソリューションが、「ポイント」、「アプリケーション」から「システム」に移行すべきだと論じる。ただしシステム・ソリューションへの移行には注意が必要である。企業の意思決定プロセスは無数のルールで成り立っており、そのなかの一つをAIに置き換えると、他の部分に大きな影響を及ぼしかねない。ディスカバリーキャンバスと呼ぶ手法で、白紙の状態からシステム全体の絵を描くべきだとする。

## 悪文の構造

### ～機能的な文章とは～

千早耿一郎  
筑摩書房 1,210円(税込)

多くの方にとって必要なのは芸術的な名文を書くことではなく、悪文を書かないこと。小説や新聞、法律の条文を取り上げ具体的に、「悪文」を書かないための技術を紹介した書。文章の構造を図示して、読みづらかったり、誤解を生んだりする原因を解明する。筆者が「工学的」と呼ぶ手法は実に明快で分かりやすい。三島由紀夫や有吉佐和子、新田次郎といった著名小説家の文章でも、駄目な部分を具体的に指摘し、容赦なくこき下ろす。

筆者が重視するのは、正確であり、曖昧でなく、誤解されない“機能的”な文章である。読者に負担をかけない、読者に対する親切心に裏付けられた文章を重視する姿勢に共感が持てる。

横田 英史 (yokota@et-lab.biz)

1956年大阪生まれ。1980年京都大学工学部電気工学科卒。1982年京都大学工学研究科修了。  
川崎重工業技術開発本部でのエンジニア経験を経て、1986年日経マグロヒル(現日経BP社)に入社。日経エレクトロニクス記者、同副編集長、BizIT(現日経クロステック)編集長を経て、2001年11月日経コンピュータ編集長に就任。2003年3月発行人を兼務。2004年11月、日経バイト発行人兼編集長。その後、日経BP社執行役員を経て、2013年1月、日経BPコンサルティング取締役、2016年日経BPソリューションズ代表取締役就任。2018年3月退任。  
2018年4月から日経BP社に戻り、日経BP総合研究所 グリーンテックラボ 主席研究員、2018年10月退社。2018年11月ETラボ代表、2019年6月当協会理事、2020年4月(株)DXパートナーズ アドバイザリーパートナー、2024年3月(株)観瀾舎を設立 代表取締役社長、現在に至る。  
記者時代の専門分野は、コンピュータ・アーキテクチャ、コンピュータ・ハードウェア、OS、ハードディスク装置、組込み制御、知的財産権、環境問題など。

\*本書の内容は横田個人の意見であり、所属する団体の見解とは関係がありません。

